

高等学校における教科指導の充実

国 語 科

PISA型「読解力」を育む指導の工夫

栃木県総合教育センター
平成21年3月

まえがき

総合教育センターでは、平成17年度より、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、生徒の学力の向上に資することにあります。

教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の児童生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策が打ち出されたり提言がなされたりしています。

平成19年12月に公表された、2006年のOECD生徒の学習到達度調査（PISA）では、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力のそれぞれについて問題点が指摘されています。

また、平成20年12月には、国際数学・理科教育動向調査の2007年調査（TIMSS2007）の結果が公表されました。この調査では、学力低下に歯止めがかかったという分析がある一方で、パターン化された指導の弊害とも見られる結果も一部に見られ、思考力の育成に課題があることも指摘されています。

小学校と中学校の新学習指導要領が平成20年3月に公示されたのに続き、21年3月には、高等学校の新学習指導要領が公示される予定です。高等学校においては、数学と理科が24年度から、国語、地理歴史、公民、外国語が25年度から学年進行で実施されます。小・中学校、高等学校とも、今回の改訂の主な改善事項として、「言語活動の充実」、「理数教育の充実」が示されました。これらは、先に挙げた各種調査で、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られたことなどに対する改善策でもあります。

本調査研究においては、今年度、国語科、公民科、数学科、理科、外国語科（英語）の各教科で、各種調査の結果から指摘されている課題と教育界の動向を踏まえ、その解決を図るための授業改善について取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成21年3月

栃木県総合教育センター所長

鈴木 健一

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
事例1 マインドマップで発想を広げて小論文を書く・・・・・・・・	3
事例2 小説と映画を比較して「舞姫」を読み味わう・・・・・・・・	12
事例3 「檸檬」におけるクリティカル・リーディング・・・・・・・・	22
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

「とちぎ学びの杜」 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

PISA型「読解力」を育む指導の工夫

はじめに

国語科では、OECD生徒の学習到達度調査（PISA）（以下「PISA調査」とする）の結果から指摘されている課題を踏まえ、学習指導要領の趣旨に則り、今年度の研究テーマを「PISA型『読解力』を育む指導の工夫」として、研究に取り組んだ。

PISA調査においては、「読解力」の分野で日本は2000年調査の8位から2003年調査の14位へ大きく順位を下げ、2006年調査では15位となった。（総合平均得点では上位2位グループに位置する。）PISA調査における「読解力」とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されている。PISA調査で課題とされた「読解力」を育むためには、学習指導要領に示された、「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の各領域にふさわしい教材や言語活動を調和的に取り上げ、指導の改善を図り、国語力を総合的に高める必要がある。

文部科学省では、2003年のPISA調査の結果を踏まえ、「読解力向上に関する指導資料—PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向—」（平成17年12月）をホームページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201.htm）等で紹介している。その中で、PISA型「読解力」の育成のために、次のように七つの「指導のねらい」を示している。

指導のねらい
ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること （ア）目的に応じて理解し、解釈する能力の育成 （イ）評価しながら読む能力の育成 （ウ）課題に即応した読む能力の育成
イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること （ア）テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成 （イ）日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成
ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること （ア）多様なテキストに対応した読む能力の育成 （イ）自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

また、この「読解力向上に関する指導資料」では、上記のねらいに即して、小学校・中学校の各教科及び総合的な学習の時間における「読解力を高める指導例」（全45例）を紹介しており、その前書きでは、『読解力』向上のために単元を特設するのではなく、これまで行われてきた指導に工夫・改善を加えることで基本的に短時間で実践できる」と述べている。

この考え方を参考にして、本調査研究では、次ページに挙げる各事例において、高等学校の国語科における「PISA型『読解力』を育む指導の工夫」について実践した。いずれの事例も、特別に単元を設定したものではなく、年間指導計画に位置付けられた単元の指導に、上記七つのねらいのいくつかからヒントを得て工夫を加えたものである。七つの「指導のねらい」を網羅したものではないが、これを参考にして、指導の工夫改善に生かしていただきたい。

事例1 マインドマップで発想を広げて小論文を書く

フィンランドの教育メソッドを参考に、マインドマップの作成やグループ活動を取り入れて、学び合いを通して小論文を書く。

事例2 小説と映画を比較して「舞姫」を読み味わう

小説の「舞姫」と、映画の「舞姫」を比較して、テキストを「解釈」したり「熟考・評価」したりして、自分の意見を書く。

事例3 「檸檬」におけるクリティカル・リーディング

「檸檬」とその習作である「瀬山の話」を、批判的な視点をもって評価しながら読み比べる。

<研究協力委員>

栃木県立宇都宮清陵高等学校	教 諭	津久井 伸 子
栃木県立小山南高等学校	教 諭	杉 本 有加里
栃木県立足利西高等学校	教 諭	岡 田 智 子

<研究委員>

栃木県総合教育センター 研究調査部	副主幹	吉 澤 正 光
-------------------	-----	---------

事例 1

マインドマップで発想を広げて小論文を書く

1 育成を目指す言語能力

(1) PISA型「読解力」の立場から育成を目指す能力

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること
(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

* 「読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—」(文部科学省)より

PISA型「読解力」は、テキストを読んで「解釈」したことについて評価されるだけでなく、テキストの表現の仕方を「熟考・評価」して自分の意見を書くことについても評価される。また、日本の生徒の「読解力」低下の一因として、記述式の設問での無答率がOECD平均の二倍から三倍になっていることが指摘されている。この二点を踏まえると、自分の考えを「書く」ことに関して指導を充実させることが、「読解力」向上のために有効であると考えた。

(2) 国語科の立場から育成を目指す能力

自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書くという言語能力を育成する。そのために、国語表現Ⅰの言語活動例の「エ 身近にある様々な表現を集めてその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。」を参考にして指導を展開する。

生徒の多くは文章を書くことに対して苦手意識をもっている。初歩的な段階では、作文と小論文の違いが分からない。分かったとしても、時事問題などに対する関心の低さ、読書量の不足などから、書く材料をもっていない。このような実態を踏まえて、あるテーマに関してマインドマップ*¹で発想を広げることから始め、ワークシートに書かれた発問や指示に従って思考を整理した上で、小論文を書くという指導を展開しようと考えた。さらに、表現効果について自己評価や相互評価を行い、それらを生かして文章を推敲するという言語活動を取り入れる。

○該当する学習指導要領の指導事項

国語表現Ⅰ「B書くこと」

ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合ったりすること。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 マインドマップで発想を広げて小論文を書く (7時間)

(2) 単元の目標

- ① 目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり、効果的な表現を考えて書いたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- ② 書くための発想を広げたり情報を整理したりして、自分の考えを文章にまとめる。(書く能力)
- ③ 表現効果について吟味して自己評価や相互評価をし、それらを自分の作品の推敲に役立てる。(書く能力)
- ④ 小論文を書くために必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解する。(知識・理解)

*1 中央にテーマを書き、その周囲にテーマから連想したことを放射状に書き込んでいく手法。

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
①目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり、効果的な表現を考えて書いたりしようとしている。	①書くための発想を広げたり情報を整理したりして、自分の考えを文章にまとめている。 ②表現効果について吟味して自己評価や相互評価をし、それらを自分の作品の推敲に役立てている。	①小論文を書くために必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解している。

(4) 指導と評価の計画（7時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 3	①マインドマップの作り方を知る。 一つのテーマについてクラス全員で考えてマインドマップを作る。 ②「最近気になったニュース」として挙げておいた三つのテーマの中から一つを選び、各自でマインドマップを作って思考を広げる。資料1	○マインドマップの例を示し、作成の仕方を理解させる。 ○「ネット社会」、「食品偽装」、「育児」の三つのテーマの中から選択させる。	書く能力① (ワークシートへの記述の確認) 書く能力① (ワークシートへの記述の確認)
4 5	③テーマごとにグループを作り、各自のマインドマップを合わせて、疑問点を挙げる。資料2 ④新聞などを活用して、③で挙げた疑問点についてグループで調べ、テーマに対する問題点や解決策を考えて付箋に書き込む。	○テーマごとに4～5人のグループに分ける。	
6 7	①文章の構成を考え、箇条書きでワークシート資料3に書き込む。 ②ワークシート資料3を基に、序論、本論、結論を書く。資料4	○論理的な文章の展開について一つの型を示し、それに従って書かせる。	
6 7	①自己評価を行う。資料5 ②グループ内で相互評価を行う。資料6 ③自己評価や相互評価を参考にして、より説得力のある文章になるように推敲する。	○客観的に見直しをさせる。 ○良い点を評価するとともに改善点をアドバイスするように促す。	書く能力② 知識・理解① (ワークシートへの記述の確認)

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

生徒の自己評価の状況を見ると、その多くが「a 良く書けたと思うところ」を三点以上挙げる事ができていた。しかし、「b 本当は、こう書きたかったと思うところ」を記入できた生徒は少なかった。また、「よく書けなかった」というような、印象を述べるにとどまり、具体性を欠くものが多かった。また、その一方で、「c 今回の方法で小論文を書いてみて、手ごたえや改善点について考えたこと」では、「発想を広げていくうちに自分のテーマが変わってきた」、「友人の意見を聞いて新しい発見があった」など、マインドマップを用い、グループ学習を通して小論文を書くという学習の成果を実感する記述も多かった。

相互評価においては、「a 良く書けていると思うところ」は自己評価のそれと比べると、具体的に書かれており、友人に良い点を伝えようとする態度が見られた。しかし、友人への気遣いからか、実際には誤字・脱字があっても「b 改善点」としての指摘はほとんどなされなかった。「c 感想」も「参考になった」というような良い評価に偏っていた。

また、小論文の内容としては、推敲の後も、なお練り上げる必要のあるものが多かった。生徒の初稿の例[資料4] (p8) と、自己評価・相互評価を経て推敲した例[資料7] (p11) を挙げておく。

発想を広げ、他者に伝えるために文章をまとめようとする姿勢や、互いの文章の良いところを認めるといった姿勢が見られたことから、「関心・意欲・態度」については、評価規準に照らして概ね達成できた。一方、「書く能力」「知識・理解」については、評価規準を満たすために、指導を継続する必要がある。

4 成果と課題

(1) 成果

これまでの自身（本事例における指導者）の小論文指導を振り返ってみると、簡単な構成を考えさせただけで文章を書かせることが多く、「何を書くか」という指示はしても、「どう書くか」という指導を丁寧にしていなかった。また、生徒が書いた文章を添削して返却し、書き直させることはあっても、生徒に自己評価や相互評価をさせたことはなかった。今回はマインドマップの作成とグループ作業を取り入れることで、協力してアイデアを出し合い、それをもとに小論文を書くという指導を行った。テーマについては、事前に「最近気になるニュース」についてアンケートをとり、その中で回答が多く、小論文のテーマになりそうなものを選んだ。しかし、「気になる」と「知っている」ことの差は大きく、マインドマップを作る段階で苦労した生徒が多かった。また、マインドマップを基にグループで問題点や解決策を考える作業では、具体的な解決策が挙げられず、予定した以上に時間を要した。しかし、互いに意見を交換し、根拠を挙げて自分の意見を説明できたこともあり、その後の小論文を書く作業では、以前と比べて筆の進みが速い生徒が多いように感じられた。

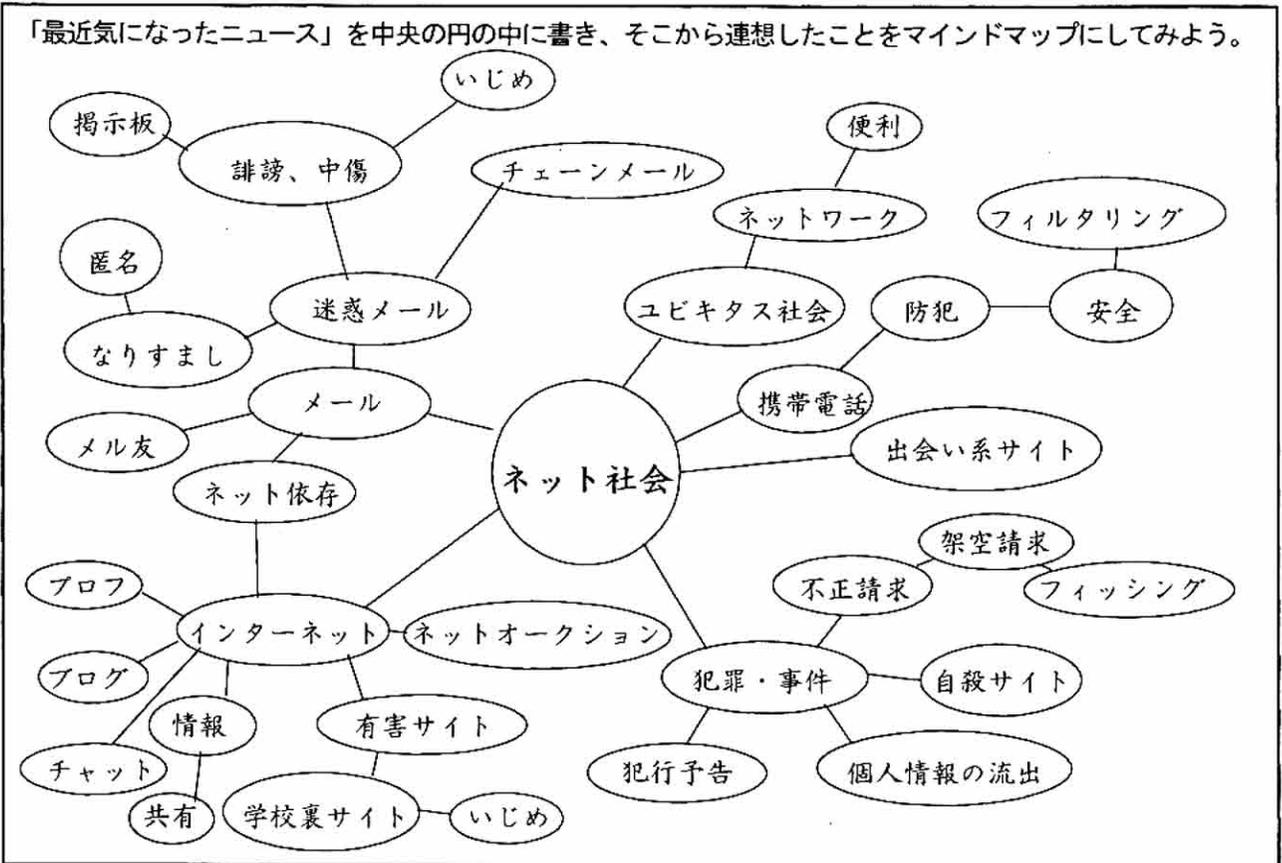
「書く」ことにグループ作業を取り入れたことによって、生徒たちが自分の視点を変え、発想を広げることを体験できたことは、今後の表現活動に多少なりとも生かされるのではないだろうか。また、文章を相互に評価し、それを受け入れることを通して、読み手を意識した文章を書くことにつながっていく可能性が期待できる。

(2) 課題

マインドマップで発想を広げる方法や、グループ内での相互評価を生かして推敲するという書き方を、生徒は初めて体験したため、これらの手法に未熟な面があった。これらの手法を他の指導の場面でも取り入れて慣れさせ、効果を十分に発揮できるようにしていきたい。

参考文献

- ・ 田中孝一監修 西辻正副・富山哲也編『中学校・高等学校 PISA型「読解力」－考え方と実践－』明治書院、2007年
- ・ 北川達夫、フィンランド・メソッド普及会著『図解 フィンランド・メソッド入門』経済界、2005年
- ・ 大村はま、苺谷剛彦、苺谷夏子著『教えることの復権』筑摩書房、2003年



※マインドマップ…中央にキーワードなどを書き、そこから放射状にキーワードやイメージを繋げていくことで、発想を延ばしていく図解表現技法。フィンランド・メソッドでは「カルタ」と呼んでいる。

最近気になったニュース「ネット社会」班員 (〇〇、〇〇、〇〇、〇〇)

そのニュースの問題点と解決策

問題点				
迷惑メール	通販、オークションでの詐欺	未成年の出会い系サイト	ネット依存	個人情報の流出
誹謗・中傷	自殺サイト、裏サイトへのアクセス	犯罪予告		
解決策				
迷惑メール アドレス変更 サブアド使用	通販 公式サイト利用 先払いしない	生のコミュニケーション	個人情報の流出 パスワード設定	
誹謗・中傷 アクセス制限 禁止ワード登録				

生徒の作品例

年 組 番 氏名 ○○ ○○

グループで考えた問題点や解決策を基にして、箇条書きでまとめよう。

①序論 ニュースの内容と、その問題点をあげよう。

- ・ ネット依存。ひきこもり。
- ・ 誹謗、中傷。
- ・ 犯罪予告。自殺サイト、裏サイト。

②本論 ①であげた問題に関して、

a 自分はどのように考えているかを書こう。

- ・ 人間関係の希薄さ。
- ・ インターネットにのめり込む。
- ・

解決策を考えよう。

- ・ 実際に人とふれあう。
- ・
- ・

b 予想される反対意見を書こう。

- ・ 様々な情報が得られる。
- ・
- ・

③結論 解決策について、もう一度整理してみよう。

- ・ 会話が大切。
- ・ 周囲の助け。
- ・

生徒の作品例（誤字等も含めて原文のまま示す。）

年 組 番 氏名 ○○ ○○

箇条書きにまとめたものを利用して、意見をまとめ、小論文を書こう。

①序論 ニュースの内容をまとめ、どのようなことが問題になっているかを述べよう。（100字程度）

インターネットの普及により、ネット依存やひきこもりが増えてきている。仮装世界にのめりこみ、現実の生活がうまくできなくなったり、けい示板での誹謗や中傷、犯行予告も後をたたない。自殺サイトや裏サイトからおこる事件も耳にする。

②本論 b 自分とは反対の意見を考慮しつつ、自分の意見を明確にしよう。（200字程度）

私は、人間関係がうまくいかなかったことがネット依存の現因だと考える。周りの人々との人間関係が希薄になり、会話が減る。そして、会話をインターネット中の世界へと求める。しかし、インターネットは、私たちに様々な情報を与えてくれるものだ。顔も本名も知らない相手とやりとりすることは、個人情報をおやみに教えたり、悪口を書き込むなどをしなければ、よい刺激となるし、楽しい。だが、ルールやマナーをやぶったり、インターネットの世界にのめりこんだ時、問題となる。

②本論 a 本論 b で書いた自分の意見について、なぜそう言えるのか。解決策も提示して、具体的に書こう。（200～300字程度）

生身の人間と関わっている社会生活の中では、誹謗中傷するような人でなくても、実際に顔が見えないという環境にあるインターネットの世界では、気が大きくなり、心ない書きこみをしてしまうのだと思う。現実社会でのうまくいかないことはけりとしてインターネットを使う。また、ネット依存の人々も現実社会では、うまくいかない、会話する相手がなく、心のよりどころがない。という人が、人と関わりたいがためにインターネットにのめり込むのではないだろうか。この問題を解決するには、家族、地域、学校、会社などで実際に人とふれあうことができれば、人の気持ちにふれることもでき、ネット社会とのバランスもとれるだろう。

③結論 以上のことから、どのようなことが考えられるか、まとめてみよう。（50字程度）

以上のことから、ネット依存の問題は、人との直接の会話でかいしょうされると思う。また、周りの人々が、状況よりに気づき必要ならば助ける手だすけをしてあげる事が大切だと思う。

自己評価

a 良く書けたと思うところを3点以上挙げなさい。

(例) 読みやすい字で丁寧に書けた。 文章展開の型に従って書けた。
 反対意見についてよく考えた。 根拠を挙げて自分の意見を述べることができた。
 具体的な解決策を挙げられた。

- ・ 原因を具体的に挙げられた。
- ・ 問題点をまとめて書けた。
- ・ 制限字数いっぱいを書けた。

b 本当は、こう書きたかったと思うところを挙げなさい。

- ・ 誹謗中傷とネット依存、何が言いたいのか明確でなかった。
 本当は…ネット依存と誹謗中傷を関連づけて書きたかった。

- ・ 本論bとaで言いたいことが同じになってしまった。
 本当は…bでは問題点を、aでは解決策をしっかり書きたかった。

c 今回の方法で小論文を書いてみて、手ごたえや改善点について考えたことを書きなさい。

こんな方法でした・・・ ①連想して枝を広げる。②問題点・解決策を考える。
 ③箇条書きでまとめる。④型に沿って小論文を書く。

いろいろな問題が出てきて、何を書けばいいのか分からなくなってしまった。発想を広げることはできたが、整理しきれなかった。

相互評価

《 ○○ 》さんの小論文について

- a 良く書けていると思うところを三点以上挙げなさい。

(例) 読みやすい字で丁寧に書いてある。 誤字・脱字がない(少ない)。
文章が簡潔で分かりやすい。

- ・言いたいことがよく分かった。
- ・よくまとまっていて読みやすかった。
- ・難しい言葉(仮想社会)などを使ってよかった。
- ・インターネットにのめり込む人の気持ちを、よく考えて書いている。

- b 改善点で下記に該当するものがあれば挙げて、どのように直したらいいか、提案しなさい。

- ・誤字・脱字などがある。 (仮装 → 仮想) (けい示 → 揭示)
(後 → 跡) (現因 → 原因)
(状きょう → 状況) (→)
- ・改善した方がいいところ。

- ・話し言葉や文章のねじれがある。一文が長すぎる。
- ・②本論bは「たしかに」、本論aは「しかし」で書き出した方がよい。
- ・本論aに書いた「顔が見えないと気が大きくなる」という内容は、本論bに書いて、本論aでは、それに対する対策を書いた方がよい。
- ・「人とふれあう」という抽象的な解決策でなく、より具体的な解決策を考えた方がよい。
- ・「おやみに教えたり、悪口を書き込むなどをしなければ、～やぶったり、～のめりこんだ時」
→「～たり、～たり」とする。
- ・「助ける手助け」
→「助けてあげることが」「手助けをしてあげることが」

- c 小論文を読んだ感想を書きなさい。

- ・インターネットにのめり込む人の気持ちを想像して書いている点がよいと思った。「相手の顔が見えないと気が大きくなる」とか、「刺激になる」とか、本当にそうだと思った。「のめり込んでしまう人は、心のよりどころがない」と考えているところも、そのとおりだと思った。
- ・文章にまとまりがあって、読みやすかった。内容が詳しく書かれていて、自分の意見もはっきり書けていたので分かりやすかった。結論は、もう少し具体性があるとよい。

生徒の作品例（自己評価・相互評価を経て推敲した作品）

インターネットの普及により、ネットに依存する若者が増えてきている。仮想世界にのめり込み、現実の生活がうまくできなくなるなど、問題は深刻だ。私たちはインターネットをうまく利用するためにどのようなことに気をつければよいのだろうか。

たしかに、インターネットは、私たちに様々な情報を与えてくれる。興味のある単語を一つ入力するだけで、多くの情報を得ることができ、それに関心を持つ人たちとつながることができる。共通の話題があれば会話も弾むし、見知らぬ相手とのやりとりは刺激になる。相手の顔が見えない分、思ったことも言いやすく、普段とは違う自分を演じることもできるだろう。そのため、つい気が大きくなって心ない書き込みをしてしまうことも起きてくるだろう。ネットに依存する若者たちの中には、現実社会のストレスのはけ口として、利用している人も多いと考えられる。

しかし、自分が違う自分を演じているように、他人も演じているということを忘れてはならない。また、匿名での行為とはいえ、自分の言葉には責任が伴うということを忘れてはならないだろう。中傷・誹謗を書き込めば、それを不快に思う、あるいは傷つく人間がいるのは、ネットも現実の社会も同じである。むしろ、顔が見えない分、ネットの方がエスカレートしやすいと考えられる。そのため、ネットの書き込みをめぐるトラブルが多く、ひどい時には事件にもつながってしまうのだ。そうならないために、責任と自覚を持って、利用することが大切だ。また、ネットの特質を考えると利用している本人だけでは歯止めが利かないこともあると考えられるので、周りが注意することも必要であろう。例えば、家庭では、時間を決めて使うなどのルールを決めることも有効だと考えられる。周りに人がいれば、仮想現実へのめり込むことは避けられるし、家族など身近な人と話ができれば、ネット上でのやりとりも減っていくだろう。そうすれば、ネットの世界も、誹謗・中傷ではなく、もっと建設的な意見を交わせるものへと変わっていくかもしれない。

したがって、私たちはインターネットを利用する際に、匿名性のメリットばかりにとらわれず、デメリットがあることを知り、自分がそこに陥る危険性があることを認識した上で、責任を持って、利用することが大切だと考える。そして、周囲の人と一緒に、よりよい使い方を考えていくことが必要だ。

事例 2

小説と映画を比較して「舞姫」を読み味わう

1 育成を目指す言語能力

(1) PISA型「読解力」の立場から育成を目指す能力

- ア テキストを理解・評価しながら読む能力を高めること
 (ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成
 (イ) 評価しながら読む能力の育成

* 「読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—」(文部科学省)より
 テキストに書かれた情報を理解するだけでなく、「なぜそう書いたのか」、「どのように書いてあるのか」ということを「解釈」したり、テキストの表現の仕方を「熟考・評価」して自分の意見を書いたりする学習活動を展開する。

(2) 国語科の立場から育成を目指す能力

文学的な文章を読んで、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して的確にとらえ、作品を読み味わう能力を育成する。そのために、現代文の言語活動例の「ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり、創作的な活動を行ったりすること。」を参考に、小説と映画を比較して表現方法の違いや表現者の意図を考えて文章にまとめたり、物語の最後の部分を創作したりする言語活動を取り入れる。

○該当する学習指導要領の指導事項

現代文「C読むこと」

イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 小説「舞姫」(森鷗外)

(2) 単元の目標

- ① 小説の世界と自己の経験とを引き比べて読んだり様々な表現を比較したりすることで、ものの見方や感じ方を広げたり深めたりする態度を身に付ける。 (関心・意欲・態度)
- ② 人物の心情や人物の相互の関係を把握する。 (読む能力)
- ③ 小説と映画を比較することで、表現の意図や表現方法の違いを理解する。 (読む能力)
- ④ 語句について、その意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。 (知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① 小説の世界と自己の経験とを引き比べて読んだり様々な表現を比較したりすることで、ものの見方や感じ方を広げたり深めたりしようとしている。	① 人物の生き方や心情の推移を的確にとらえ、出来事の背景をつかみながら読んでいる。 ② 文字情報からなる小説と、音声と映像の情報からなる映画を比較することで、表現方法の違いや映像制作者の意図について自分なりの考えを深めている。	① 語句の意味・用法を理解し、語彙を豊かにしている。

(4) 指導と評価の計画 (14時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>作者及び小説が書かれた時代の背景を理解する</p> <p>(1) 森鷗外、明治の時代を予備知識として学習する。</p> <p>(2) 森鷗外に関する新聞を作成する。</p>	<p>○作者の体験や明治の日本人の考え方が、作品に大きな影響を与えていることを説明する。</p> <p>○便覧を参考にさせ、どのようなことを取り上げたらよいかヒントを与える。<u>資料1</u></p>	
2 9	<p>本文の内容を理解する</p> <p>(1) 各段落を音読し、本文を読解する。辞書や脚注を参考にして、漢字・語句を確認する。</p> <p>(2) チェックテスト<u>資料2</u>で、段落ごとの内容を確認する。</p>	<p>○補助教材として、井上靖の『現代語訳 舞姫』(ちくま文庫)から引用した資料(著作権の関係で本誌には掲載しない)や漫画を活用しながら、次の段落に興味をもつように読ませる。</p>	<p>読む能力① (教師の発問に対する回答) 知識・理解① (小テスト)</p> <p>読む能力① (チェックテストへの記述の確認)</p>
10 11	<p>小説と映画を比較する</p> <p>(1) 小説と映画の最後の場面を比較し、脚本家の意図を考える。</p> <p>(2) 小説と映画の結末について考察する。</p>	<p>○篠田正浩監督の映画『舞姫』を鑑賞して、小説との違いを用紙<u>資料3</u>に記述させ、脚本家がなぜそのように変えたのか、意図を考えさせる。</p> <p>○小説と映画の結末を比較し、どちらが適切か判断し、その理由も述べさせる。<u>資料3</u></p>	<p>読む能力② (ワークシートへの記述の確認)</p> <p>読む能力② (ワークシートへの記述の確認)</p>
12 13	<p>最後の場面を創作する</p> <p>(1) 場面を変えた意図を考えて創作し、自己評価する。</p> <p>(2) (1)で書いた作品を相互評価する。</p>	<p>○場面を変えた意図に沿って書くようにさせる。<u>資料4</u></p> <p>○感想・アドバイスを書かせる。<u>資料5</u></p> <p>○よく書けている作品を数点選んで発表させる。</p>	<p>知識・理解① (ワークシートへの記述の確認、観察)</p> <p>読む能力① (ワークシートへの記述の確認、発表の様子を観察)</p>
14	<p>登場人物を一人選び、その立場に立って考える</p> <p>(1) ある登場人物の立場に立って、自分だったらどのような行動をとるか考える。</p> <p>(2) 全体の感想をまとめる。</p>	<p>○行動の理由も述べさせる。<u>資料6</u></p> <p>○何名か発表させる。</p> <p>○小説全体を読み終えての感想を書かせる。<u>資料6</u></p>	<p>読む能力① (ワークシートへの記述の確認、発表の様子を観察)</p>

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

本単元の目標は、「文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう」ことであり、その学習を効果的に進めるために、「小説と映画を比較して、表現者の意図や表現方法の違いなどについて考えを書く」という言語活動を取り入れた。

映画では最後の場面の設定が小説と違っていることから、映画の脚本家はなぜ設定を書き換えたのか、生徒にその意図を探らせた（資料3の活動）。生徒のほとんどが、小説と映画を比較をした上で脚本家の意図を推察していた。一部に、映画の場面だけから「その後の展開が難しいから」などと書いた生徒や、なぜ、どのように難しいのかという説明が不十分な生徒もいたため、提出させたワークシートに、教師の評価の他に、コメントやアドバイスなどを書き添えてフィードバックした。

4 成果と課題

(1) 成果

『舞姫』は、生徒にとってはほとんど古文と同様であり、しかも長文であるために、最初から敬遠してしまう者も少なくない。しかし、映画と比較して読んだり、映画の脚本家が最後の場面を原作と違うストーリーに書き換えた理由を考えたりしたことによって、生徒は小説をより深く理解し、味わうことができた。また、物語の最後の場面を自分なりの意図をもって創作する活動では、意図に沿うように書くことの難しさとともに、目的をもって表現することの難しさを実感しながらも、学習活動に熱心に取り組んだ。

これまでの自身の指導を振り返ってみると、従来の「読むこと」の学習においては、『舞姫』のように内容や語彙がやや難解なテキストの場合、「何が書いてあるか」を読み取らせることに多くの時間を割くという、「情報の取り出し」に重きを置いた指導をすることが少なくなかった。しかし、PISA型「読解力」の指導のねらいを意識して、「解釈」や「熟考・評価」に当たる活動を取り入れたことで、生徒の自主的・主体的な学習活動を促すことができた。単元の最後の感想に、「いろいろ考える場面があり、物語の中に入っていったような気分になった。」（資料6）と書いた生徒がいるように、「考えること」や「自分の意見を書くこと」の大切さを実感したようである。

また、この実践の指導者自身も多くのことに気付くことができた。特に、次の二点については、これまでの指導の反省であるとともに、今後の指導上の留意点として記しておく。

①目的を明確に示すことで、生徒は自主的に学習活動に取り組めるようになること。

②指導の内容に合わせて学校図書館などを活用することで、生徒のやる気を引き出すことができること。

「読むこと」における自身の従来の授業展開では、学習の目的が生徒に明確に示されていないことが多かった。生徒は、目的をもって読むことは少なく、いつものように前時までの続きを今日も「読む」ことが常態化していたのではないだろうか。しかし、生徒に学習の目的を明確に示すことで、指導者側も、評価の観点や、教材研究の視点及びその方法などが明確になった。また、この実践の後、他の教材における指導の工夫についても考えるようになった。

(2) 課題

PISA型「読解力」の定義は「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」である。その能

力を育成するためには、テキストからの「情報の取り出し」に偏った指導ではなく、さらにそこから先の「解釈」、「熟考・評価」、「表現」の中で「読む力・聞く力」、「考える力」、「書く力・話す力」を育成するような指導が必要である。

感想文を書くことを例に挙げても、ただ自由に書かせるのではなく、何かテーマを与えるなり、書き方を指導するなりして書かせるなどの工夫が必要であろう。「連続型テキスト」（文章で表された物語、解説、記録など）としての教科書教材だけでなく、教科書教材以外の「連続型テキスト」を読み比べるために取り入れたり、身近に存在する「非連続型テキスト」（データを視覚的に表現した図、地図、グラフなど）なども指導に取り入れたりして、PISA型「読解力」を育む指導を工夫していきたい。

使用教科書

- ・『高等学校 現代文』第一学習社

参考文献

- ・田中孝一監修 西辻正副・富山哲也編『中学校・高等学校 PISA型「読解力」－考え方と実践－』明治書院、2007年
- ・森鷗外著 井上靖訳『現代語訳 舞姫』筑摩書房、ちくま文庫、2006年
- ・田中孝一編『新しい高校国語 指導の理論と実践 第3巻 読むことの指導』明治書院、2001年

映像資料

- ・映画『舞姫』監督・脚本：篠田正浩、原作：森鷗外、脚本：田村孟、ハンス・ボルゲルト、1989年

2008年 月 日 ()

3-

*この部分に、森
嶋外の顔写真を資
料集からコピーし
て貼る。

森嶋外新聞

西暦	事項
一八六二	島根県津和野町で誕生。
一八七四	東京医学学校予科に入学。
一八八四	ドイツに留学。
一八八九	赤松登三子と結婚。 「我が母影」
一八九〇	「舞姫」
一八九六	「めいまし草」
一九一〇	「五月年」
一九二一	「雁」
一九二二	「阿訶一族」
一九二五	「山椒大夫」
一九二六	「高瀬舟」
一九二二	七月九日死去。

※赤字は代表作品※

生い立ち

二月十七日に誕生する。
本名は**森不郎**。
森太郎は、学問を通して
家を興えようとする一家の
期待を一身に集めたが、
成長していった。

上京

同郷の有名な啓蒙学者
であり、政治家でもあった
西島の勧めで、一八七二年
に上京した。

ドイツ留学

一八八四年から一八八五年まで
ドイツで「ホヤハッテン」
コーズルについて衛生学を
学んだ。

小説と評論

ドイツ留学後、嶋外の
文学活動は、翻訳と小
説と評論とに分けられ
る。幼少時代への体験を
盛り込んだ作品には、完
結小説があった。

最期

一九二〇年ごろから病臥
することになり、一九
二二年七月六日に遺言を
筆記させ、七月九日に死
した。

舞姫

※あらすじを説いて
想像で四コママンガを描いた少女

森嶋外

一八六二年(文久二)
一九二二年(大正)

小説家・評論家

浪漫主義

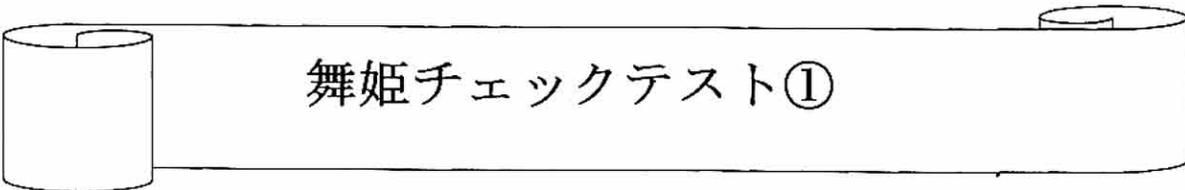
反自然主義

(明四〇一初)
歴史小説(史伝)に
生きかえを反映。

*この部分に、「スバ
ル」同人の写真を資料
集からコピーして貼
る。

*この部分に、森
嶋外の墓の写真を
資料集からコピー
して貼る。

▲嶋外の墓 (島根県津和野町)



舞姫チェックテスト①

次の質問を読んで合っているものには○、間違っているものにはその箇所に線を引き正しい答えを書け。

① 船は燃料である石炭をまだ積み終わっていない。

② 主人公は今、サイゴンにいる。

③ 主人公は、往路では当時の新聞に紀行文が載せられ、世の人々にもてはやされた。

④ 主人公は、復路でも日記をたくさん書いた。

⑤ 主人公はドイツで何事にも心を動かさなくなってしまった。

⑥ 主人公の精神状態は往路と復路では大きく変わってしまった。

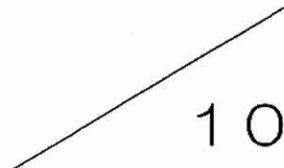
⑦ 主人公はドイツの大学での学問に満足していた。

⑧ 船の中では体の不調を理由に、船室内にこもっていた。

⑨ 主人公は今、人知れぬ憂え事に頭を悩ましている。

⑩ 主人公はドイツであった出来事の内容をこの船の中で文章にした。

3年 組 () 氏名 _____



10

★第四段落（「明治二十一年の冬は来にけり～」）の部分に相当する映画のシーンを鑑賞して、感じたこと・疑問に思ったことを自由に書きましょう。

- ・映画は小説よりも豊太郎の責任が軽くなっていると感じた。映画の方が豊太郎がエリスを思う気持ちが強く描かれていると思った。
- ・映像だと風景がよく伝わって良かった。
- ・豊太郎の母が死なずに相沢に止められて生きていること、エリスは階段から落ちて流産してしまったことは小説と違って、豊太郎に対しては良かったのだろう。
- ・エリスの悲しみと、豊太郎の悲しみがひしひしと伝わってきて、豊太郎への印象が変わった。
- ・映画ではなぜ豊太郎の母は死ななかったのか。
- ・豊太郎が相沢と日本へ帰るとき、小説にはなかった、近所の人に文句を言われるシーンがあって、違いを感じた。

★映画では最後にエリスは階段から落ちて流産してしまうという設定になっていますが、脚本家はどうのような意図で、このように変えたのだと思いますか。

- ・天国から地獄に墮ちる様子を分かりやすくしている。
- ・エリスの悲劇をあおるため。
- ・エリスが一生精神病で暮らすのは、あまりにもかわいそうすぎるため。
- ・おかしくなったエリスを置き去りにして日本へ帰るのではなく、子供を失ったエリスを思って涙する豊太郎にすることで、豊太郎の印象を少し和らげるため。
- ・子供がいない方が、豊太郎が日本に帰る決心がつきやすいため。
- ・エリスの気持ちを中心に、悲劇を描きたかったから。
- ・流産の方がリアル感がでるから。
- ・子供を殺してしまうことで、豊太郎の罪の大きさを表したかったから。
- ・実際に精神に障害を持った人への配慮から。

★あなたは小説と映画のどちらの結末が適当であると思いますか。どちらかを○で囲み、選んだ理由を書きましょう。

- | 【 小説 映画 】 |
|---|
| 小説（25名：25.5%） |
| ・エリスが階段から落ちるといのは、ありきたりすぎるから。 |
| ・豊太郎の言動がひどすぎて、そのひどさを表すにはやはりエリスが狂ってしまうという設定の方が、適当な気がするから。 |
| ・裏切られても、流産するより愛する人の子供がいるだけで幸せと感られるから。 |
| 映画（73名：74.5%） |
| ・小説の内容で終わってしまうとその先が気になり、すっきりしないため。 |
| ・小説ではエリスは一生精神病を患い、豊太郎もずっと気にし続けて生きていくことになるためそれではあまりにもかわいそうすぎるから。 |

『舞姫』のラストを書いてみよう！

3年 組 ()

★あなた自身はどのような結末がいいと思いますか。豊太郎が倒れた後の話を自由に書いてみよう。

<p>(豊太郎はそのまま倒れてしまった)</p> <p>エリスの必死な看病もむなしく、豊太郎の病状は悪化するばかりであった。豊太郎の苦しむ姿をエリスはただただ涙目で見つめていた。</p> <p>ある夜、豊太郎の熱が急激に上がり、豊太郎は声を上げて苦しんでいた。</p> <p>エリス：「豊太郎・・・こんなに苦しむぐらいなら・・・いっそ子のこと3人で楽になりましょう。どうせあなたと一生を共にするつもりだったのです。ゆるしてくれるわよね？」</p> <p>相沢：「エリスさんのお宅は・・・？」</p> <p>近所の人：「上の階だよ。」</p> <p>相沢：「ありがとう。」</p> <p>相沢が豊太郎の家を訪ねてきた。</p> <p>母：「あら、相沢さん。二人なら奥の部屋にいるわ。」</p> <p>相沢：「どうも。おじゃまします。」</p> <p>相沢が部屋にはいると・・・</p> <p>相沢：「なんてことだ・・・。」</p> <p>エリスと豊太郎は手をつないで死んでいた。もちろんおなかの子も一緒に息をひきとっていた。相沢はあらためて二人の愛の深さを知った。</p> <p>相沢：「私が豊太郎を悩ませたからこんなことに・・・。本当にすまない。」</p> <p>相沢は三人をととても豪華な墓に埋めてあげた。</p> <p>相沢：「豊太郎・・・お前はエリスさんを本当に愛し、そして愛されていたんだな。私は何か大切なことを忘れていたよ。」</p> <p>相沢は愛の大切さに気づいたのだった。</p> <p>豊太郎とエリスのおかげで・・・。</p>
--

★あなたはどのような意図で、この結末を書きましたか。

<p>悲劇のヒロイン、エリスを幸せにしてあげたかった。また名誉や地位よりも大切なものがあるということを伝えたかった。</p>
--

【自己評価】

① 読者に分かりやすく書けたか。

- 1 よく書けた
- 2 だいたい書けた
- ③ 3 あまり書けなかった
- 4 全く書けなかった

② 自分の意図を作品に表現することができたか。

- 1 十分表現できた
- ② 2 やや表現できた
- 3 あまり表現できなかった
- 4 全く表現できなかった

【感想】

物語を作るのは難しいと感じた。

【友人①の評価】

① 話の内容は分かりやすいか。

- ① 1 とてもわかりやすい
- 2 だいたいわかりやすい
- 3 わかりにくい
- 4 非常にわかりにくい

② 書いた人の意図は伝わっているか。

- ① 1 よく伝わった
- 2 だいたい伝わった
- 3 あまり伝わらない
- 4 全く伝わらない

③ 語句の使い方や表現方法は適切であるか。

- ① 1 とても適切
- 2 だいたい適切
- 3 不適切
- 4 非常に不適切

【感想・アドバイス】

意外な結末におどろいた。でもすごく良かったと思う。

森鷗外の商品並みにおもしろかった。

【友人②の評価】

① 話の内容は分かりやすいか。

- ① 1 とてもわかりやすい
- 2 だいたいわかりやすい
- 3 わかりにくい
- 4 非常にわかりにくい

② 書いた人の意図は伝わっているか。

- 1 よく伝わった
- ② 2 だいたい伝わった
- 3 あまり伝わらない
- 4 全く伝わらない

③ 語句の使い方や表現方法は適切であるか。

- 1 とても適切
- ② 2 だいたい適切
- 3 不適切
- 4 非常に不適切

【感想・アドバイス】

一緒にいるためには死ぬしかなかったので、納得した結末でした。

『舞姫』まとめ

3年 組 ()

★もしあなたが登場人物だったらどのように行動しますか。登場人物一人を選び () に書き入れ、文章を続けてみよう。(※どうしてそのように行動するのか、その結果話がどのように変わると予想されるのかということについても書こう。)

もし私が () だったら、
生徒例① もし私が (エリス) だったら、豊太郎を嫌いになる。自分のことを置いて日本に帰る人などこっちからお断り。別れ際に何らかの復讐をする。
生徒例② もし私が (豊太郎) だったら、エリスを大切に守り、相沢に分かってもらうように話したいと思う。なぜなら、自分の意志で生活できる喜びを知ったからこそ、自分の意志で生活していくことが大切だと思うから。
生徒例③ もし私が (エリスの母) だったら、お金を差し出されても受け取らないで豊太郎を引き止めたと思います。それは娘がどれだけ豊太郎を愛しているのか、よく分かっていたはずだからです。

★『舞姫』を読んだ感想を書こう。

・豊太郎の心の弱さにとても残念な気持ちになった。自分の心が弱いとあそこまで人に流されてしまうということがよく分かった。大事な場面で自分の気持ちが言えないと、大切な人を傷つけてしまうこともよく分かった。(自分はそうならないようにしたい)
・実際これが自分だったら、帰国後も罪悪感で一杯になり、日々の生活が味気ないと思う。
・エリスがとてもかわいそうだったが、豊太郎もきつとつらい判断だったのだろうと思う。
・私も友人にあんな期待や信頼をされていたら、断ることはできないと思う。
・豊太郎一人が悪者のように見えるが、実はエリスも相沢もどこかに問題があったような気がする。豊太郎の優柔不断さやエリスの熱烈な愛情、相沢の友を思う気持ちが複雑になってしまっていて、難しい話だと思った。
・いろいろ考える授業があり、物語の中に入っていったような気分になった。

事例 3

「檸檬」におけるクリティカルリーディング

1 育成を目指す言語能力

(1) PISA型「読解力」の立場から育成を目指す能力

- ア テキストを理解・評価しながら読む能力を高めること
 - (ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成
 - (イ) 評価しながら読む能力の育成

* 「読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—」(文部科学省)より
この単元の前半では、「檸檬」をテキストとして、次の学習活動を段階的に行った。まず、①観点を絞って、客観的な視点で正しく情報を取り出す。次に、②人物の心情を理解して読み味わう。さらに、③人物の行動を解釈したり、熟考して評価したりする。後半では、批判的な視点をもって、「檸檬」と、その草稿である「瀬山の話」とを読み比べる。テキストの構成、表現についての変更点を明らかにして、書き手の意図を類推したり、根拠を示しながら評価したりする。

(2) 国語科の立場から育成を目指す能力

様々な文章を読んで、作者の表現の意図を考えることができるように、文章の内容を表現に即して読み取ったり、批判的な視点をもって読み取ったりするという言語能力を育成する。そのために、現代文の言語活動例の「ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり、創作的な活動を行ったりすること。」を参考に、「檸檬」と、その草稿である「瀬山の話」とを読み比べて、表現方法の違いや表現者の意図を考えて文章にまとめたり、評価したりする言語活動を取り入れる。

○該当する学習指導要領の指導事項

現代文「C読むこと」

ウ 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。

オ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 小説「檸檬」(梶井基次郎)

(2) 単元の目標

- ① 叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりする態度を身に付ける。
(関心・意欲・態度)
- ② 人物、情景、心情の推移などを、表現に即して読み取る。
(読む能力)
- ③ 批判的な視点をもって様々な文章を読み、書き手の意図や文章の内容をとらえて自分なりの考えを深める。
(読む能力)
- ④ 言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにする。
(知識・理解)

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①文章を読んで、内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	①文章に描かれた人物、情景、心情の推移などを的確に読み取っている。 ②批判的な視点をもって「檸檬」の結末を解釈したり、「檸檬」と「瀬山の話」を読み比べたりして、書き方や書き手の意図について自分なりの考えを深めている。	①言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにしている。

(4)指導と評価の計画（8時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 5 2	<p>言語事項の確認と内容の把握</p> <p>(1)漢字や語句に注意しながら全文を読み、印象に残った部分をワークシート資料1に記入する。 …読み1回目</p> <p>(2)「私」の置かれている状況と、時制についての表現を抜き出して、ワークシート資料1に書いて整理する。 …読み2回目</p> <p>(3)段落ごとの内容をワークシート資料1に整理する。 …読み3回目</p>	<p>○予習として語句の意味を調べさせておく。</p> <p>○読む目的をはっきりさせて、段階的に内容を把握させる。</p> <p>○状況に関して視点を提示する。</p> <p>○本作品における特徴的な時制の構成を理解させる。</p>	<p>知識・理解① (ワークシートの記述内容の確認)</p> <p>読む能力① (ワークシートの記述内容の確認)</p>
3 4	<p>「私」が惹かれる物との関わりから、「私」の行動と心理の変化を考える</p> <p>(1)段落ごとの「私」の行動や心情の描写から、「私」の性格や心情の変化を読み取り、ワークシート資料1に記入する。</p> <p>(2)「私」の鋭敏な美意識について理解する。</p>	<p>○さまざまな物が、「私」という人物の性格や心情の変化を効果的に表現していることに気付かせる。</p> <p>○「私」の鋭敏な感覚に気付かせる。</p>	<p>読む能力① (ワークシートの記述内容の確認)</p>

5	<p>これまでの内容の読解と、結末の一文の解釈から、「私」の心情を考える</p> <p>(1)「私」は「試み」によって「現実」から逃れられたか、根拠を明確にして判断し、ワークシート資料1に記入する。</p> <p>(2)判断とその根拠を発表する。</p> <p>(3)小説全体に対する感想を書く。</p>	<p>○自分の判断の根拠が文章表現中にあることに気付かせる。</p> <p>○他の生徒の意見を参考にして、考えを深めさせる。</p> <p>○肯定、否定それぞれの根拠として挙げられたものを、数クラス分まとめて一覧にして、第6時以降に配付し、フィードバックする。資料2</p>	<p>読む能力②</p> <p>(ワークシートの記述内容の確認)</p>
6 8	<p>「檸檬」と「瀬山の話」を比較・分析することで、表現の意図を探り、「改良」か「改悪」か考える</p> <p>(1)4人グループで、「檸檬」と「瀬山の話」資料3の変更点を「表現面」・「構成面」から指摘する。そこから考えられる変更の理由を考察する。それらをワークシート資料4に記入する。</p> <p>(2)変更が結果的に改良となっているか改悪となっているかということと、その判断理由を考える。資料4</p> <p>(3)個々の変更点が小説全体の完成度にどう影響しているかを考え、全体的な感想をまとめる。資料4</p> <p>(4)グループごとに(1)～(3)について発表し、質疑応答をする。</p>	<p>↓</p> <p>*資料2を配付して読ませる。</p> <p>○「檸檬」をいくつかの段落ごとにグループの数に分け、それぞれのグループが分担した部分について、比較・分析を行わせる。</p> <p>○「檸檬」と「瀬山の話」とでは、話題の序列に相違があり、表現にも相違があることに気付かせる。</p> <p>○グループの意見をまとめさせる。</p> <p>○グループから提出されたワークシート資料4を印刷して配付し、クラス全体で考えさせる。</p>	<p>読む能力②</p> <p>(グループの話し合いの観察・ワークシートの記述内容の確認)</p> <p>読む能力②</p> <p>(グループの発表の様子と、質疑応答の観察)</p>

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

「檸檬」の読解の最後に、それまでの内容の読解と、結末の一文の解釈から、「私」の心情を考えさせた。具体的には、「私」は「試み」によって「現実」から逃れられたと言えるかどうかを考え、根拠を明確にしてワークシートに記入させ、それを発表させて評価した。肯定派と否定派とはほぼ同数であった。多くの生徒が根拠を本文中の表現に求め、自分なりの解釈を説明することができた。分からないとした生徒もその理由を本文中の表現に求めて述べており、取組の状況は満足できるものであった。また、後半の読み比べにおけるグループ活動では、変更点の指摘とその理由の類推、さらにその変更の結果をどう見るかという点に関して、グループでの話し合いを観察して評価した。生徒はよく協力して、活発に話し合っていた。精読した「檸檬」との比較であるので、細部にわたる比較ができていた。発表においては、「改良」か「改悪」かについて判断したことを、根拠を明確にして説明できており、「評価しながら読む」というねらいを概ね達成できたと言えよう。

4 成果と課題

(1) 成果

本単元は、PISA型「読解力」の立場から、「目的に応じて理解し、解釈する力の育成」と「評価しながら読む能力の育成」をねらいとして展開した。

前者については、従来、導入部で漠然と行っていた初読を、今回は、正しく情報を取り出すというように観点を明確にして取り組ませた結果、その「目的に応じて」読み取らせることができた。また、小説最後の一文についての解釈については、自己の解釈と他の生徒の解釈との比較から、一つの単語がもたらす解釈の可能性の多様さに気付かせることができた。言葉による認識の可能性を広げることができたと思う。

後者については、「檸檬」とその草稿である「瀬山の話」と読み比べて、筆者が捨象したことや残したことなどを検討することで、筆者の創作の意図や思考過程について考えさせることができた。また、それらの学習を踏まえて、読者が小説に批評を加えることができることに気付かせることができた。このようにして身に付けた批評的に読む意識や態度は、読み手としての立場から翻って、書き手としての立場に立った際にも発揮されることが期待できる。

(2) 課題

読み比べの学習は、出典や草稿に当たる作品が存在している作品で、これまでも行われてきた。したがって、PISA型「読解力」の育成に当たる指導が、従来全く行われなかったわけではない。今後は、読み比べの指導の場面だけでなく、他の教材における指導の場面でも、「何が書いてあるか」を生徒に考えさせるだけでなく、「なぜそう書いたか」、「その書き方は適切か」ということを考えさせる指導を、意図的に取り入れていく必要がある。

使用教科書

・『精選現代文』東京書籍

参考文献

- ・田中孝一監修 西辻正副・富山哲也編『中学校・高等学校 PISA型「読解力」－考え方と実践－』明治書院、2007年
- ・石原千秋著『国語教科書の思想』ちくま書房、2005年
- ・梶井基次郎著『檸檬・冬の日 他九篇』岩波文庫、1954年

「檸檬」 () 3年 () 組 () 番 ()

予習ワークシート

《読み一回目》

1 次の語句の意味を調べなさい。

焦燥 ()	媚びる ()
典雅 ()	琥珀 ()
翡翠 ()	勾配 ()
驟雨 ()	絢爛 ()
螺旋 ()	紡錘 ()
往来 ()	闊歩 ()
諧謔 ()	晒す ()
陪調 ()	惡漢 ()

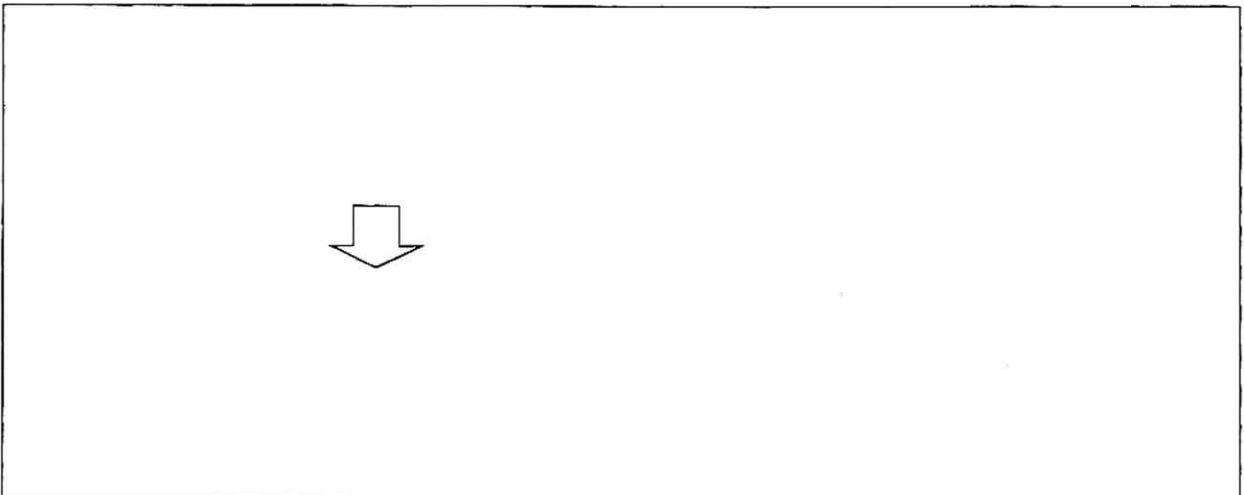
2 全文を読んで、作品中最も印象に残った部分を抜き出してみよう。

《読み二回目》

3 「私」の置かれている状況について、読み取れる部分を書き出してみよう。

- ・ 身分
- ・ 健康状態
- ・ 経済状態
- ・ 生活状況

4 「時制」に関わる表現を抜き出し、作品内の時制の構成について整理しよう。



《読み三回目》

5 三つに分けた段落の、それぞれにおける「私」の行動と心理をおおまかに整理しよう。(抜き出しでなくてもよい)

段落	行動	心理
一		
二		
三		

第一段落

1 「えだいの知れない不吉な塊が私の心を始終おきえつけていた。」について本文中から該当する部分を答えよ。

①どのような感情を伴うものか。

②原因として考えられるものを全てあげよ。

③その結果私をどのような気持ちにさせるのか。

	図示してみよう
--	---------

2 「そのころ」の私はどのようなものにひきつけられたのか、箇条書きで抜き出し、それがどういうものかまとめよ。

- ・
- ・
- ・



3 「以前」の私はどのようなものにひきつけられたのか、それがどういうものかまとめよ。

・

・

・

4 右の対比から「以前」と「そのころ」の私の心情のどんな違いが読み取れるか。

・

・

・

5 「時々私はそんな路を歩きながら、ふと、そこが京都ではなくて……という錯覚を起こそうと努める。」(p.213・11)、「そして私はその中に現実の私自身を見失うのを楽しんだ。」(p.214・5)から読み取れる、私の現実世界に対する気持ちを説明せよ。

・

・

・

第二段落

・ 果物屋の魅力

1 p.216・8とp.217・12の説明の部分から「果物屋の魅力」について、まとめよ。

<p>つまりこの果物屋も()て() ものであり、()と対称的な場所である。</p>	<p>果物屋のカット</p>
--	----------------

・ 樽様の魅力

2 私が感じている樽様の魅力について、次の観点から特徴を抜き出し、最終的にどのようなものの象徴としてあるのか整理せよ。

<p>・ 視覚 色彩</p> <p>形状</p> <p>・ 触覚 冷覚</p> <p>・ 嗅覚</p>	<p>「つまりは」</p> <p>この重さこそ</p>
---	-----------------------------

・機嫌を買った後の私の変化

「始終私の心をおさえつけていた不吉な塊がそれを握った瞬間からいくらか（ ）とみえて、私は街の上で非常に（ ）。」

3 「あるいは不審なことが、逆説的な本当であった。」とはどのことをさしているのか、わかりやすく説明せよ。



・「心というやつは（ ）」

・「実際あんな単純な冷覚や触覚や嗅覚や視覚が、ずっとこればかり探していたのだと言いたくなかったほど 私にしっくりしたなんて（ ）」

—それが（ ）」

第三段落

・私が最後に立ったのは平常あんなに（ ）丸善の前だった。

1 なぜ丸善に入ったのか。

心情・ところが私の心を充たしていた

行動・以前あんなにも好きだった

心情・

・「あ、そうだ、そうだ。」

◎第一のアイデア

その意…

その効果…

◎第二のアイデア

私の心中に起こった感情の流れ…奇妙なたくらみ→

想像の中で丸善を爆破させることの意味…

(※丸善の象徴するものとは)

2 そのたくらみによって私は現実から逃れられたか。

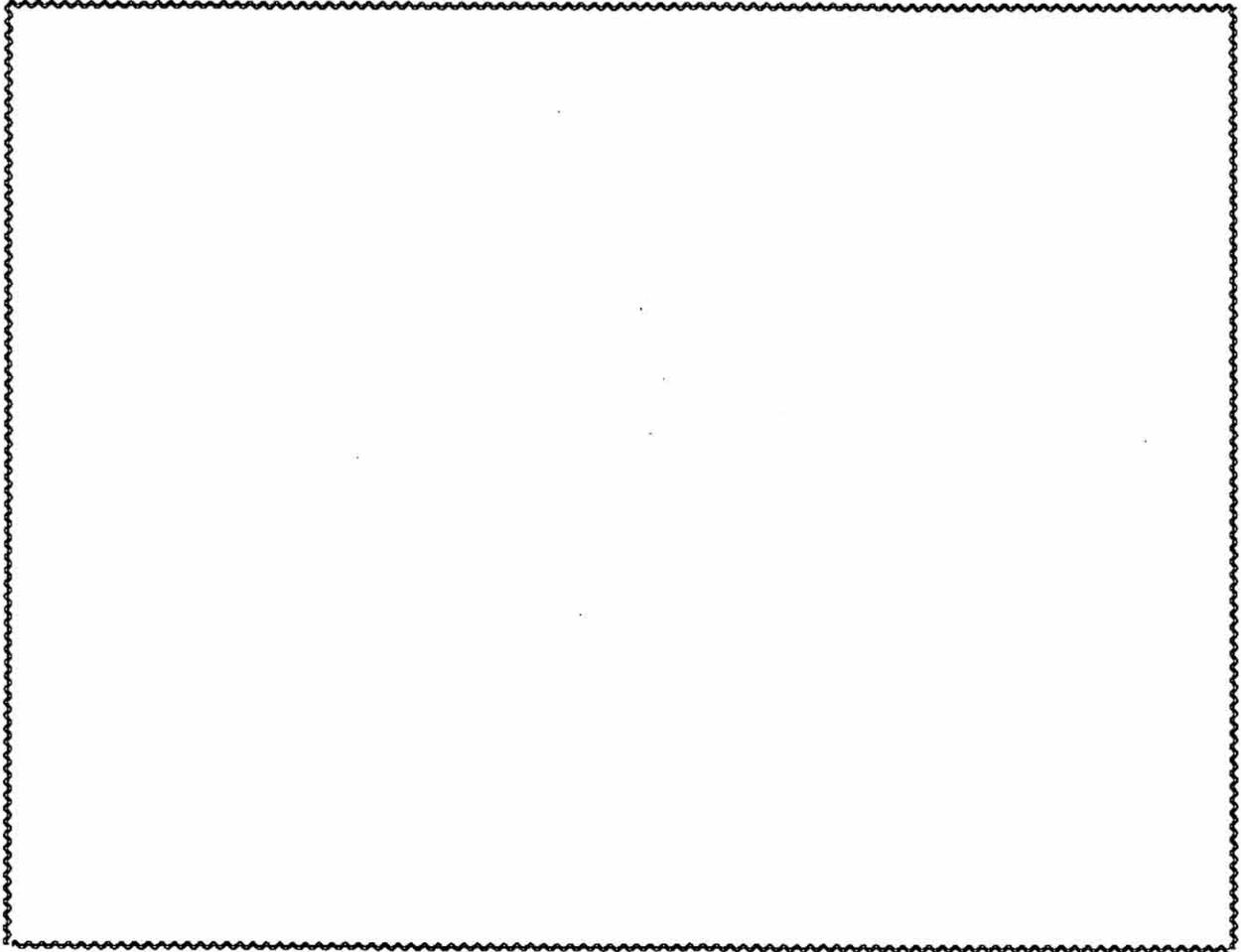
YES

NO

根拠 (

)

☆この小説を読んで感じたこと考えたことを、自由に書いてみよう。



「檸檬」の「私」は現実（不吉な塊）から逃れられたか否か

YES派 41名 31%

根拠

- ・「微笑ませた」「熱心にその想像を追求した」などの明るく力強い表現から。
- ・「京極」は楽しく明るい場のようなイメージだから。
- ・「裏通り」を好んでいた作者が、繁華街である「京極」へ向かったのは、明らかな変化と言えるので。
- ・「想像」を「熱心に追求」している間だけでも現実から逃れられたと言えるのではないか。
- ・明らかに私の気持ちが良い方向へ向かっているから。
- ・「憂鬱な」気持ちを打破できたと思うから。
- ・この小説の結末は「私」が幸福になったことを指していると思うから。
- ・檸檬を置いてくるという行為は紛れもない現実で、一つの気持ちのはげ口であるから。
- ・避けていた「丸善」に爆弾を仕掛けるという強気な気持ちになれたので。

NO派 87名 67%

根拠

- ・「奇体な」という表現が不吉なイメージだから。
- ・「奇体な」というのが、華やかな「京極」に変な違和感を生じさせており、しつくりこない現実を表していると思うから。
- ・「京極」という繁華な場所へ行くが、もう檸檬がないので効き目はない。
- ・「京極」へ行くという表現より、結局京都から逃れることができなかったから。
- ・「京極を下つて行った」ということは「現実へ戻つて行った」ということだから。
- ・「京極」イコール「憂鬱」（イコール「丸善」）だから。
- ・「果物屋」と反対方向の「京極」に行つたので、現実の方向を志向していると思うから。
- ・「京極を下つていった」というのは、繁華な場所から逃げることだと思うので、「私」は変わらないから。
- ・最終的には空想から現実に戻らざるを得ないので。（肺尖カタルや借金が消えたわけではない。）
- ・一時的な幸福であるから。
- ・「丸善」は想像に関わりなく存在し続けるので。
- ・「想像を熱心に追求」したとしても、それはあくまで想像なので。
- ・「心というやつは不思議なもので」いずれまた憂鬱が訪れるであろうから。
- ・現実を表す最後の一行の前に、想像から冷めていく段階があると思うので。
- ・本当に逃げたいと思うなら、そこを去つて別の土地に行くと思うので、本当は逃げたくないのかも。（実は「憂鬱」とは親和性をもつものか？）
- ・安心できる場所を探すために、さらに「京極」を下つていったから。（放浪を続けるので。）
- ・結末の「私」は微笑んでいるが、そのころを振り返つて書いている現在の「私」は、「檸檬をもつたことで幸福になれた当時のこと」を書いているのであり、現在は「檸檬」ですら「私」を「現実」から逃れさせる術をもたないことを意味するのではないか。

どちらでもない派 2名 2%

根拠

- ・以前は「京都から何百里も離れた仙台とか・錯覚をおこそうとしていたのが、「京極」という京都の町へ向かっていくのは、現実を受け入れた証拠なので、逃げたのではなく、現実と対峙するようになった。
- ・現実是不変だが、向き合える精神状態へと回復した。（錯覚を起こそうとしてはいないので。）

櫻葉 (「瀬山の話」から)

恐ろしいことには私の心のなかの得体の知れない嫌悪といおうか、焦燥といおうか、不吉な塊が——重く苦しく私を
 圧して、私にはもうどんな美しい音楽も、美しい詩の一首も半抱出来ないのがその頃の有様だった。

全く半抱出来なかったのだ——善音器をきかせてもらいにわざわざ出かけても——最初の二、三小節で不意に立ち上
 っつてしまいたくなる。

それで始終私は街から街へ彷徨を続けたのだ。何故だかその頃私は見すばらしく美しいものに強くひきつけ
 られたのを感じている。風景にしても嫌れかかった街だとか、その街にしても表通りを歩くより裏通りを歩くのが好
 きだったのだ。裏通りの空気が軽かったり、しだらない部屋が汚い洗濯物の間から臭えていたり——田圃のあるよ
 うな場末だつたら田圃の畦を伝つているとその空地裏の美が軽つているものだ。田圃の作物の中でも黒い土の中から
 いじこけて生えている大根葉が好きだった。

私はまたあの花火という奴が好きになった。花火そのものは第二段として、あの安っぽい絵具が紙の一端に塗つてあ
 つて、それが花火になると螺旋状にくるくる巻になつていっているのだ。本当に安っぽい絵具で、赤や紫や青や、風花火とい
 う火をつけるとシユシユといながら地面を這いまわる奴などが一ぱい箱に入つてゐるところなど変に私の心を吸つ
 たのだ。私はまたあのびいどろという色硝子で作つたおはしきが好きになつたし、南京玉が好きになつた。それをま
 た私は嘗て見るのが何ともいえない享樂だつたのだ。あのびいどろの味ほど幽かな涼しい味があるものか。私は小
 さい時よくそれを嘗て父や母に叱られたものだが——その幼時の記憶が蘇つて来るのか知ら、それを嘗ていと幽
 かな爽やかな詩美といったような味覚が漂つて来るのだ。

察しはつくだろうが金というものがまゝでなかつたのだし。——私の財布から出来る贅沢には丁度持つて来いのもの
 なのだ。そうだ、外でもない、その廉価ということが、それにそんなにまでも愛着を感じる要素だつたのだ——
 考えて見てもそれが一円にも値するものだったら、恐らくそのような美的価値は生じて来なかつただろう。恐らく私は
 それを金のかかる道具同様何ら興味を感じなかつたに相違ない。

私はこうきいている。金持の婦人はある衣裳が何だときいて買わなかつた。しかしそれがその二倍も三倍もの価
 に正札がつけかえられて括て買った。また有産品などというものも値段の上下がその品質の高下を左右する傾きが
 ありはしまいか。私はそれを馬鹿にするのでは決してない。唯それが私の場合と同様なしかも対蹠的な場合として面白
 く思うのだ。

私はまた安線香がすきだつた。
 それも〇〇香とかいてあるあの上包みの色が私を誘惑したのだ。それに第一、線香の匂いがどんなにいいものだから
 君も知っているだろう。

——それで櫻葉の話なのだが、私はその日も例の通り友人の学校へ行つてしまつて私一人はつねんと取残された友人
 の下宿からさまよひ出したのだ。街から街へ——さつきもいつたような裏街を歩いたり駄菓子屋の前で、極りのわる
 いの空を歩いて悪いたまでもするように廉価な美を捜したり。——しかし何時も何時も同じ物にも働きが来る。ある時
 には乾物屋の乾蝦や樽鮭を眺めたりして歩いてたのだ。

私が果物店を美しく思つたのは何もその頃に始まつたことではなかつたのだが私はその日も果物店の前で足を留めた
 のだ。私は果物屋にしても並べ方の上手な所と下手な所をよく知つていた。どうせ京都だし、ロクな果物屋などはない
 のだが——それでもいい店とわるい店の違いはある。しかしそれが並べ方の上手下手、正確に言えばある美しさが感ぜ
 られる所とそうでない所と——それの区別には決してならないのだ。私は寺町一家の角にある果物店が一等好きだつた。
 あすこの果物の積み方はかなり急な勾配の台の上に——それも古びた、黒い漆塗りの板だつたと思う——こんな形容を
 してもいいか知ら、何か美しい華やかな音楽のアレグレットの流れが——もしそんな想像が許されるなら、人間を石に
 化するゴルゴンの鬼面——的なるものを差しつけられて、あんな色彩やあんなウオリウムに凝り固まつたという風に堪き
 とめられているのだ。も一つはあすこでは例の山何銭の札がたててないのだ。私はあれは邪魔になるばかりだと思つた。
 昔物がやはり勾配の上におかれてあつたかどうかは疑わしいが、しかし奥へゆけばゆけほど高く堆くたつていて、——
 実際あの人参葉の美しさなどは素ばらしかつた。それから水につけてある豆たとかくわいたとか。

それにその家では——もう果物店としてはありふれた反射鏡が果物の山の背に傾き加減に決つてあるのだ。——そ
 の鏡がまた粗悪極まるもので果物の形がおびただしく歪んでうつる。それが正確な鏡面で正確な映像を映すよりど
 れだけ効果があるかは首肯出来るだろう。

その店の美しさは夜が一番だつた。寺町通は一体に賑かな通りで飾窓の光がおびただしく流れ出しているが、ど
 ういう訳かその店頭、店頭のぐるりだけが暗いのだ——一体角の家のことでもあつて、その一方は二条の淋しい路だ
 から元より暗いのだが、寺町通にある方の片側はどうして暗かつたのかわからない。しかしそれが暗くなつたらあんな
 にも私を誘惑するには至らなかつただろう。も一つはその家の扉なのだが、——その扉が眼深にかぶつた鳥打帽の
 扉のようにかなり垂れ下つている——そしてその扉の上側——その家の二階に当る所からは灯が射して来ないのだ。そ
 のためにその店の果物の色彩は店頭へ二つほど標のままで点けられている五十燭光ほどの光線を浴びるようになつて
 ——暗い闇の中に絢爛と光つていっているのだ。丁度精巧な照明技師がここぞとばかりに照明光線をなげつけたかのよう。
 これもつきたりだが、その果物店の景色はあの鎗屋茶舗の二階から見るとそれもまたいい。私は鎗屋の二階の硝子
 戸越しにあの暗い深く下された果物店の扉は忘れることが出来ない。

ところで私はまた序説が過ぎたようだ。
 実はその相対時ものことではあるしするので別に美しくも思わなかつたのだが私はなにげなく店頭を物色したのだ。
 そして私は其処に其処の家にはあまり見かけない櫻葉がおいてあるのを見つけた。——櫻葉などは極くありふれてい
 るが、その果物屋というのも実は見すばらしくはないまでも極くあたり前の八百屋だつたのだから、そんなものを見つ
 けることは稀だつたのだ。

大体私はあの櫻葉が好きだ。レモンエローの絵具をチューブから絞り出して固めたような、あの単純な色が好きだ。
 それからあの純粋形の嗜好も。それで結局私はその家で例の廉価な贅沢を試みたのだ。

私のその頃が例の通りの有様だつたことをそこで思い出して欲しい。そして私の気持がその櫻葉の一點で思いがけな

く救われた、とにかく数時間のうちはまきらされていた。——という事実が、逆説的な本当であったことを首肯して欲しいのだ。それにしても心という奴は不可思議な奴だ！

第一その極様の冷たさが気に入ってしまったのだ。その頃私は例の肺炎カタルのためにいつも身体に熱があった。——事実友達の誰彼に私の熱を見せびらかすために手の握り合いなどをしたのだが、私の手が誰のよりも熱かった。その熱い奴だったのだから、握っている掌から身体に滲み透ってゆくようなその冷たさは快いものだった。

私は何度も何度もその采突を鼻に持つていった。——その産地のカリホルニアなどを思い浮べたり、中学校の漢文教科書で習った采昔者之言の中に書いてあった「鼻を採つ」というような言葉を思い出したりしながら、ふかふかと胸一杯に匂やかな空気を吸い込んだりした。——その故が身体や顔に温い血のほとぼりが昇ったりした。そして元気が何だか身体に湧いて来たような気がした。

実際あんな単純な冷覚や触覚や嗅覚や視覚が——ずっと昔からこればかり探していたのだといいたくなる位、私にしたりしたなんて——それがあの頃のことなんだから。

私は往來を軽やかな昂奮に弾んで、誇りかな気持ちさえ感じながら、——大輪の向日葵を胸にさして街を闊歩した昔の詩人などのことを思い出したりして歩いていた。汚れた手拭の上へのせて見たり、将校マントの上へ載せてみたりして色の反映を窺って見たり、こんなことをつづやいたり。

——つまりはこの重きなんだな。——

その重きこそ私が常々尋ねめぐんでいたものだとが、疑いもなくこの種みはすべての善いもの、美しいものとなづけられたものを——重量に換算して来た重きであるとか——思い上つた諧謔心からそんな馬鹿気たようなことを思つて見たり、何がさて上機嫌だったのだ。

舞台は變つて丸善になる。

その頃私は以前あんなにも繁く足踏した丸善からまるきり遠ざかつていた。本を買つてよむ気もないし、本を買う金がなかったのは勿論、何だか本の背革や金文字や、その前に立つている落つた学生の顔が何だか私を脅かすような気がしていたのだ。

以前は金のない時でも本を見に来たし、それに私は丸善に特殊な享樂をさえ持つていたものなのだ。それは赤いオードキニシヤオードロコ口の瓶や、洒落たカットグラスの瓶や、ロココ趣味の浮世模様のある典雅な瓶の中に入っている、琥珀色や薄い翡翠色の香水を見に来ることだったのだ。そんなものを硝子戸越しに眺めながら、私は時とすると小一時間も時を費したとさええる。

私は家から金がついた時など買ったことはほんの隔だったが、高価な石鹸や、マドロス煙管や小刀などを一気回成に眼をつぶつて買おうと躊躇する時の、壮烈なような悲壯なようなあの気持ちを味わう遊戯を試みるのも其処だった。それには画の本を見る楽しみがあつたのだ。しかし私はその日頃もう画の本に眼をさらし終つて後、さてあまりに尋常な周囲をみまわす時の姿にそぐわない心持をもう永い間経験せずにはいたのだった。

しかし變にその日は丸善に足が向いたのだ。

しかしそれまでだった。丸善の中へ入るや否や、私は変な憂鬱が段々たてこめて来るのを感じ出した。香水の壇にも、煙管にも、昔のような執着は感ぜられなかった。私は画帳の重たいのを取り出すのさえ常に増して力が要るな、と思つたりした。それに新しいものといつては何もなかった。ただ少なくなつていただけだった。しかし私は一冊ずつ抜き出しては見る、——そしてそれを開けては見るのだ。——しかし克明にはぐつてゆく気持は更に湧かない。

しかも呪われたことには私は次の本をまた一冊抜かずにはいられないのだ。また呪われたことには一度ハラハラとやつて見なくては気がすまないのだ。それで堪えなくなつてそこへ置く、以前の位置へ戻すことさえ出来ないのだ。——そうして私は日頃大好きだったアングルの橙色の背革の重い本まで、なお一層の難え難さのために置いてしまった。手の筋肉に疲労が残っている。——私は不愉快にただ積み上げるために引き抜いた本の群を眺めた。

その時私は袂の中の極様を思い出した。

本の色彩をゴチャゴチャと積み上げ、一度この極様で試して見たらと自然に私は誇つた。

私にまた先ほどの軽やかな昂奮が帰つて来た。私は手当たり次第に積みあげ、また慌しく潰し、また築きあげた。新しく引き抜いてつけ加えたり、削りとつたりした。奇怪な幻想的な城郭がその度に赤くなつたり青くなつたりした。

私はやつと、もういい、これで上出来だと思つた。そして軽く跳り上る心を制しながらその城壁の頂きに恐る恐る据えつけた。

それも上出来だった。

見わたすと、その極様の単色はガチャガチャした色の階調を、ひっそりと紡錘形の身体の中へ吸収してしまつて、輝く渡り、冴えかえつていた。私には、埃っぽい丸善の内の空気がその極様の周囲だけ変に緊張しているような気がした。私は事畢れりというような気がした。

次に起つたなお一層奇妙なアイディアには思はずぎよつとした。私はそのアイディアに惚れ込んでしまったのだ。

私は丸善の書棚の前に黄金色に輝く爆弾を仕掛けに来た。奇怪な悪漢が目的を達して逃走するそんな殺戮を勝手に自分自身に振りあてて、——自分とその想像に酔いながら、後をも見ずに丸善を飛出した。あの奇怪な放送台にあの黄金色の巨大な宝石を象眼したのは正に俺ぞ！私は心の裡にそういつて見て有頂天になった。道を歩く人に、その奇怪な見世物を早く行つて見ていらつしやい、といいたくなつた。今に見ろ大爆発をするから。

……ね、とにかくこんな次第で私は思いがけなく愉快な時間潰しが出来たのだ。

何？ 君は面白くもないといつたのか。はははは、そうだよ、あんまり面白いことでもなかったのだ。しかしあの時、秘密な歡喜に充たされて街を彷徨っていた私に、

——君、面白くもないじゃないか——

と不意にいつた人があつたとし給え。私は慌てて抗弁したに違いない。

——君、馬鹿をいつてくれては困る。——俺が書いた狂人芝居を俺が演じているのだ、しかし正直なところあれほど馬鹿気た気持ちに全然なるには俺はまだ正氣過ぎるのだ。

「瀬山の話」	「檸檬」	考えられる変更の理由	「改良」「改悪」とその判断理由
<p>表現面</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷たさが気に入ってしまったのだ 肺尖カタル 熱い故 私の手 何度も カリフォルニア 思い浮べたり 中学校の漢文教科書 言葉の思い出したり (なし) 元気が目覚めて (なし) (なし) 大輪の向日葵 昔の詩人 将校マント 載せて またこんなことをつぶやいたり 思ってみたり 上機嫌 <p>構成面</p> <p>「丸善」についての説明が後半にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 冷たさはたとえようもなくよかった 肺尖を悪くした 熱いせい 私の掌 何度も何度も カリフォルニア 想像に上ってくる 漢文 言葉がきれきれに浮かんでくる 胸いっぱい呼吸したことなかった 身内に湧いて来た 不思議に思える 一種 美的装束 詩人 マント あてがって またこんなことを思ったり 考えてみたり 幸福 	<ul style="list-style-type: none"> 冷たさを強調する 不吉な魂の正体をはっきりさせたから わかりやすいから 詳しくした 強調した ? 読者にも想像して欲しかったから 中学校の経験はいらぬから 記憶が曖昧になっている様子 自分が熱くなっている様子を表すため 檸檬の存在が薄くなってしまふから 「昔」でなくても良いから 「将校マント」でなくても良いから 檸檬をびったりとあわせるという意味 自分の中で密かに考える 想像をより現実的に「考える」ため 「幸福」の方が大きいから <p>クライマックスにつながるの、直前に入っていたが、前半の「私」の好きな物とのつながりを重視したため。</p>	<p>改良…心地よい冷たさが伝わる</p> <p>改良…「悪く」が小説のイメージに合う</p> <p>改良…わかりやすい</p> <p>改良…檸檬を握るのは掌だから</p> <p>改良…興奮している様子を表す</p> <p>どちらでもよい</p> <p>改良…じわじわと気持ちが高ぶる様子</p> <p>改良…変更の理由と同じ</p> <p>改悪…「昔」の方が思い出す様子が伝わる</p> <p>改悪…強気なイメージが失われる</p> <p>改良…びったりする</p> <p>改良…変更の理由と同じ</p> <p>改良…話の流れがよりスピーディーになる。</p>
<p>全体的な感想</p> <p>「瀬山の話」は、「檸檬」よりも明るいイメージがあるように思う。</p> <p>同じことを示すような表現でも、言葉や書き方が少し違うだけで、読み手の受け取り方が変わってくるのがおもしろい。</p>			

おわりに

各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことが分かる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

1 言語活動の充実

公示された新学習指導要領では、改訂の主な改善事項の一つとして「言語活動の充実」が掲げられ、「国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実」というように、指導の方向性が示された。現行の高等学校国語科の学習指導要領にも全24の言語活動例が示されていたが、新学習指導要領では、他の教科においても「言語活動」の重要性が示されたわけである。今後とも、国語科は言語力を育成するために中心的な役割を果たさねばならない。

事例1、**事例2**では、自己評価や相互評価を取り入れた創作活動をさせている。**事例3**では、作品と関連する文章を読み比べて考えたことを文章にまとめさせている。このように、文章の理解を深めたり、興味・関心を広げたりするために、言語活動を効果的に取り入れることが大切である。

2 グループ活動やワークショップ型の学習活動によって、生徒同士が主体的に学び合う授業へ

生徒を主体的な学びに導くためには、チョークとトークによる教師主体の授業ばかりでなく、グループ活動やワークショップ型の学習活動などを通して、主体的に考えて学び合う生徒主体の授業を展開する必要もある。

事例1では、発想を広げるために、グループでマインドマップ作ったり小論文をグループ内で相互評価させたりしている。**事例2**では、創作活動に相互評価を取り入れている。**事例3**では、読み比べの学習をグループで行わせている。このように、生徒が主体的に学び合う国語教室を作ること、コミュニケーション能力の育成の点からも大切である。

なお、生徒や学習集団の実態によっては、グループ活動などに不慣れであったり不得手であったりすることもある。したがって、グループ活動などを導入した当初は、期待した成果がすぐには見られないこともあろう。特に、学習活動として相互評価をさせても、生徒は人間関係に気を遣うあまりに相手に遠慮をし過ぎて、文章の推敲に生かす評価・批判がうまくできないこともあろう。性急に成果を求めずに、粘り強い指導を続けることも必要である。

3 「情報の取り出し」に偏らない「読むこと」の指導を

高等学校「国語」の教科書に採録されている作品は、生徒の読書の傾向と比較して難易度が高い。いきおい、「何が書いてあるか」を読み取ることに指導に偏りかねない。しかしながら、「情報の取り出し」に偏った指導では、生徒の学習意欲を喚起することや、「読む能力」を生徒に実感を持って身に付けさせることは難しい。

また、目的に応じて、文章形式の「連続型テキスト」だけでなく、表、図、グラフ、地図などの「非連続型テキスト」を含む様々な文章や、身の回りの広告などの実用的な文章、映像なども教材として取り上げ、実生活で活用できる読解力を育成したい。

事例2や**事例3**では、「どう書かれているか」、「なぜそう書いたか」、「その書き方は適切か」などと問うことで、書き方を吟味させたり、批判的に読み取らせたりしている。また、**事例1**では新聞、**事例2**では映像、**事例3**では比べ読みをするための資料を、それぞれ教材として取り上

げて活用している。このように、読む目的や身に付けさせたい能力を明確して、「情報の取り出し」に偏らない指導を工夫したい。「PISA型『読解力』」の指導の視点を取り入れて、「情報の取り出し」だけでなく、「解釈」、「熟考・評価」、「表現」などの指導を工夫することで、実社会で活用できる読解力を身に付けさせ、国語を学ぶ有用性を生徒に実感させたい。

4 情報を主体的に評価・批判して活用する能力の育成を

調べ学習の際に、インターネットや図書資料から得た情報について、言葉の意味や内容を理解しないまま引用したり発表に利用したりする児童生徒がいるという。大学では、学生のレポートに「コピペ」（コピー&ペースト）が氾濫していることが問題になっていて、その対策として「コピペ」率を算出するソフトが開発されたとのことである。また、教科書に書かれていることはすべてからく正しいと信じていて、無批判に受け入れたり感動したりするものと思っている生徒がいるという。

このような状況は、学校教育における情報教育において欠けていた点が、結果として表れたものとも考えられる。情報活用能力の育成の重要性については従前から言われていたことではあるが、教材から得られる情報を主体的に評価・批判して活用するという視点を確認して、国語科としても情報活用能力の育成の充実を図りたい。

論説や評論といった論理的な文章だけでなく、**事例2**や**事例3**のように文学的な文章においても、情報を評価したり批判したりした上で自分の思いや考えを表現させる指導を工夫したいものである。

高等学校における教科指導の充実
国語科
PISA型「読解力」を育む指導の工夫

発行 平成21年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>